

# 獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2023年度研究業績一覧

(2023年4月～2024年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

## 明田川聡士

### 著書（共著）

- ・『中国語現代文学案内』（ひつじ書房，2024年3月）
- ・『千面李喬：2022李喬文學、文化與族群論述國際學術研討會論文集』（「存在主義風潮下的主體追尋：論李喬「小説」與其安部公房閱讀史」，台灣：萬卷樓圖書，2023年12月，155～182頁）
- ・『新竹在地文化與跨域流轉：第5屆竹塹學國際學術研討會論文集』（「戰後台日雙方的少年工意象比較」，台灣：萬卷樓圖書，2023年11月，195～228頁）

### 著書（翻訳，単訳）

- ・陳又津『靈界通信（台湾文学セレクション5）』（あるむ，2023年10月）

### 論文（単著）

- ・「日本與台灣文學的「戦争」想像」（『文化記憶與歷史想像：華文文學國際學術研討會論文集』，立教大學・台灣：國立台北大學・台灣：元智大學，2024年1月，1～10頁）
- ・「戦争顯影：吳明益與東山彰良小説中的歷史敘事」（『迴徑風景：第4屆戰後亞洲文學與文化傳播國際工作坊2023論文集』，獨協大學，2023年11月，1～9頁）
- ・「陳又津『跨界通訊』で描かれるその社会的背景」（『マテシス・ユニヴェルサリス』第25卷第1号，獨協大学国際教養学部言語文化学科，2023年9月，1～20頁）
- ・「『文學』與『歴史』的對話之旅：重讀李喬『結義西來庵』」（『台灣文學研究彙刊』第30期，台灣：國立台灣大學台灣文學研究所，2023年8月，63～90頁）
- ・「張貴興『野豬渡河』中的歷史與空間運用」（『經典內外：華文文學與文化國際學術研討會論文集』，立教大學・台灣：國立台北大學・台灣：元智大學，2023年4月，1～13頁）

### 書評

- ・「東西文化の交流がもたらした中国語圏の現代文学史：梅家玲『文学的海峡

中線：「從世變到文變」(『中国21』第60期, 愛知大学現代中国学部, 243~248頁)

解説

- ・「『新二代』作家が描く少子高齢社会のいま」(陳又津『靈界通信(台湾文学セレクション5)』(あるむ, 2023年10月, 333~340頁)

口頭発表(単独)

- ・In the Era of Fading Testimonies: War Narratives In Wu Ming-yi and Higashiyama Akira's Works, Association for Asian Studies 2024 Annual Conference (Sheraton Grand Seattle, WA, 2024.3.17)
- ・「日本與台灣文學的「戦争」想像」(文化記憶與歷史想像: 華文文學國際學術研討會, 立教大學, 2024年1月28日)
- ・「日本における中国語教育の変遷」(獨協大学外国語教育研究所2023年度第1回研究例会, 獨協大学, 2024年1月24日)
- ・「戦争顯影: 吳明益與東山彰良小説中的歷史敘事」(迴徑風景: 第4屆戰後亞洲文學與文化傳播國際工作坊2023, 獨協大學, 2023年11月18日)
- ・「21世紀台湾文学が描く戦争の歴史と記憶: 吳明益小説を中心に」(東方学会2023年度秋季学术大会, 日本教育会館, 2023年11月11日)
- ・「中国語圏文学の輪廓: 台湾馬華文学における歴史と政治」(中央大学人文科学研究所定例研究会, 中央大学, 2023年7月8日)
- ・「張貴興『野豬渡河』中的歷史與空間運用」(經典内外: 華文文學與文化國際學術研討會, 立教大學, 2023年4月2日)

浅山 佳郎

論文(単著)

- ・「漢文訓読体日本語における「以て」の文法的記述」(獨協大学国際教養学部言語文化学科『マテシス・ユニヴェルサリス』第25巻第1号, 2023年9月, 1~21頁)
- ・「日本語学習者の名詞修飾における過剰な「の」について」(獨協大学『外国語教育研究所紀要』第12号, 獨協大学外国語教育研究所, 2024年3月, 13~33頁)

注釈(共著)

- ・「羅山隨筆抄訳稿(十二)」(共著者: 瀧康秀、長尾直茂、永吉徳夫、比留間健一、共同研究につき本人担当部分抽出不可能)(『上智大学国文学科紀

要』第41号、上智大学国文学科、2024年3月、33～110頁)

安間 一雄

論文 (共著)

- ・「文法指導と誤り訂正は是か非か：Schulz 論文を読む」(渡邊一弘との共著)  
(獨協大学『外国語教育研究所紀要』第12号、獨協大学外国語教育研究所、  
2024年3月、87～103頁)

浦部 浩之

論文 (単著)

- ・「日本とラテンアメリカの交流史—その始まりから第二次世界大戦まで」  
(『ラテンアメリカ時報』66巻3号、ラテンアメリカ協会、2023年7月、2～  
5頁)
- ・「ブラジル外交とグローバルサウス」(『安全保障研究』5巻4号、鹿島平和  
研究所・安全保障外交政策研究会、2023年12月、48～62頁)
- ・“Brazilian Foreign Policy and the Global South” (*Security Studies*, KIIP/  
Society of Security and Diplomatic Policy Studies, Vol.5 No.4, December  
2023, pp.57-73) [上記の和文欧文同時掲載版]
- ・「2007年グアテマラ選挙と選挙監視団—選挙監視活動の効果と課題に関する  
一考察—」(『マテシス・ウニウエルサリス』第25巻第2号、獨協大学国際教  
養学部言語文化学科、2024年3月、1～31頁)

口頭発表 (単独)

- ・「ラテンアメリカにおける国境問題の発生要因と紛争解決過程の特徴」(内陸  
国研究会オープンリサーチ、於：立命館大学、2023年6月23日)
- ・「ラテンアメリカにおける国際秩序と覇権主義への対抗—地域間外交と社会  
運動」(日本国際政治学会 2023年度研究大会、於：福岡国際会議場、2023年  
11月12日)
- ・「ブラジル外交とグローバルサウス」(SSDP第65回安全保障外交政策研究会  
[「グローバルサウスとは何か」第3回]、オンライン開催、2023年11月20日)

川村 肇

翻訳

- ・「朴鐘培著 薛聡の釈読口訣と韓国古代の儒学教育」(『マテシス・ウニウエ

ルサリス』第25巻第2号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2024年3月、139～166頁)

- ・「朴鐘培著 朝鮮前期の儒教経書口訣とその教育史的意義」(『マテシス・ウニヴェルサリス』第25巻第2号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2024年3月、167～196頁)
- ・「禹龍濟著 朝鮮後期書堂教育の両面性」(『マテシス・ウニヴェルサリス』第25巻第1号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2023年9月、143～164頁)

#### 図書紹介

- ・「堀尾輝久『地球時代と平和への思想』」(『教育学研究』第91巻第1号、日本教育学会、2024年3月、139～140頁)

### 金 秀晶

#### 論文 (単著)

- ・「日本에서의 한국어 교재 개발과 방향」(백록어문교육학회, 『백록어문』 30집, 2022年11月, 5～24頁)

#### 論文 (共著)

- ・「주제토론 : 한국언어문화교육의 현장 : 현황과 쟁점」(민경모, 윤영, 강현자, 조수진과 공저) (한국언어문화교육학회, 『언어와 문화』 제19집 3호, 2023年8月, 1～20頁)

#### 口頭発表 (単独)

- ・「日本에서의 한국어 교재 개발과 방향」(백록어문교육학회, 하계학술발표대회, 제주대학교 사범대학 1호관 3247호, 2022年8月24日)

#### 口頭発表 (共同)

- ・「주제토론 : 한국언어문화교육의 현장 : 현황과 쟁점」(좌장 : 민경모, 패널 : 윤영, 강현자, 조수진과 공동발표) (한국언어문화교육학회, 제36차 춘계전국학술대회, 성균관대학교 인문사회과학캠퍼스 경영관, 2023年5月13日)

#### 教科書 (共著)

- ・『もうできないなんて言わせない韓国語～初級から中級編』(朴鍾厚と共著)、白帝社、2023年4月、全198頁)
- ・『韓国語コミュニケーションレシピ 初級』(朴鍾厚と共著)、HAKUEISHA、2023年3月、全179頁)

## 小島 優生

### 著書（共著）

- ・『現代韓国の教育を知る 隣国から未来を学ぶ』松本麻人・石川裕之・田中光晴・出羽孝行編著（「教育行政制度」，明石書店，2024年3月，55～84頁）
- ・『スクール・コンプライアンス研究の現在』日本スクール・コンプライアンス学会編（「2章 教員の危機とスクール・コンプライアンス—教員免許制度に焦点を当てて—」，教育開発研究所，2023年10月，36～49頁）

### 論文（単著）

- ・「韓国における産学連携の現状と課題：マイスター高校を中心に」（『スクール・コンプライアンス研究』12巻，日本スクール・コンプライアンス学会，2024年2月，64～75頁）

## 小宮 秀陵

### 論文（単著）

- ・「한국고대사 연구에서 동아시아론과 동부유라시아」（『중앙사론』 제58집，중앙대학교 중앙사학연구소，2023年4月，123～153頁）

### 翻訳

- ・高恩淑（小宮秀陵訳）「国立ハンゲル博物館所蔵品からみた朝鮮王室の女性の生活と文化—教育と読書、文字生活などを中心に」（伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子編『アジア遊学283 東アジアの後宮』勉誠出版社，2023年6月，200～204頁）

### 口頭発表（単独）

- ・「書評：植田喜兵成智『新羅・唐関係と百済・高句麗遺民』（山川出版社、2022年）」（朝鮮史研究会関東部会2023年12月例会，朝鮮史研究会，早稲田大学戸山キャンパス31号館203教室，2023年12月16日）
- ・「근년 출토된 일본 목간에 대하여」（한국목간학회 제43회 정기발표회 “新出土 文字資料의饗宴”，한국목간학회・국립중앙박물관，국립중앙박물관 교육관 제1 강의실，2024年1月19日）

## 吳 浩東

### 研究報告（単著）

- ・「英語学習における生成 AI の活用に関する研究」（『マテシス・ユニヴェルサリス』第25巻第2号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2024年3月、97

～118頁)

齋藤 雪絵

論文 (単著)

- ・「英語ディスカッション授業における日本人大学生のクリティカルシンキング育成の試み」(『マテシス・ウニウエルサリス』第25巻第2号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2024年3月、33～60頁)
- ・「Development of keyboarding skills and complexity, accuracy, and fluency of L2 writing through typed speed writing」(『マテシス・ウニウエルサリス』第25巻第1号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2023年9月、23～42頁)

田口 雅徳

論文 (単著)

- ・「大学生における感染予防行動と性格特性との関連」(『獨協大学カウンセリングセンター年報』第43号、獨協大学カウンセリングセンター、2023年6月、26～36頁)

口頭発表 (単独)

- ・「菱形および五角形の一筆描き動作にみられる文化的特徴(2):日台越の7・8歳児を対象とした描線動作の比較研究」(日本発達心理学会第35回大会、於:大阪国際交流センター、2024年3月6日)
- ・「菱形および五角形の一筆描き動作にみられる文化的特徴:日台越の成人を対象とした比較研究」(日本心理学会第81回大会、於:神戸国際会議場、2023年9月17日)

二宮 哲

口頭発表

- ・《*El Japón*》, (SELE2023 (スペイン語学研究会2023), 2023年8月24日)

野原ゆかり

口頭発表

- ・「外国人技能実習生が働く職場での就労者の言語使用の意識—やりとり上の

困難への対処に注目して－」（沖縄県日本語教育研究会、2024年2月11日）

- ・「厩舎で働く外国人スタッフに求められる日本語－調教師へのインタビューによる予備調査－」（日本語教育学会2023年度第1回支部集会（九州・沖縄）、2023年7月8日）

## 平田彩奈恵

論文（単著）

- ・『『源氏物語』花散里巻の「垣根」と光源氏－「垣根を越える貴公子」からの転換点として－」（古代中世文学論考刊行会編『古代中世文学論考』第50集、新典社、2023年10月、25～46頁）
- ・『『源氏物語』幻巻の「植ゑし人なき春」をめぐって－山吹と「不在」の女君たちを手掛かりに－』（『マテシス・ユニヴェルサリス』第25巻第1号、獨協大学国際教養学部言語文化学科、2023年9月、21～45頁）
- ・『『源氏物語』常夏巻における近江の君の文と「垣」－「垣根に植ゑしなでしこ」を手掛かりに－』（『中古文学』第111号、中古文学会、2023年5月、62～76頁）

研究ノート（単著）

- ・「翻案作品と「ニューヒロイン」－『とりかへばや物語』女春宮を例として－」（『平安朝文学研究』復刊第32号、平安朝文学研究会、2024年3月、34～36頁）

口頭発表（単独）

- ・「翻案作品と「ヒロイン」－宝塚歌劇における柴田侑宏作品を中心に－」（全国大学国語国文学会 第128回令和五年度冬季大会シンポジウム「文学の<キャラクター>を通じた受容－その現象と機能－」、2023年12月2日）

## 安井 一郎

論文（単著）

- ・「戦後コア・カリキュラムと特別活動－これからの特別活動を考える視座を求めて－」（『近代以降の学校教育と特別活動－日本の学習指導要領に注目して』日本特別活動学会課題研究プロジェクト「特別活動研究の研究史的メタ分析と特別活動原論の整理」216～232頁、2023年8月）\*日本特別活動学会HP特別活動アーカイブに掲載

論文（共著・分担）

- ・「コロナ禍におけるICT活用が特別活動の指導に与える影響—4地域の小学校校長へのインタビュー調査を中心として」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子・元笑予・下島泰子（『関係性の教育学』第22巻第1号、関係性の教育学会、2023年5月、29～40頁）

口頭発表（共同）

- ・「戦後新教育期の生活単元学習における健康安全指導—東京第一師範学校附属小学校、東京第二師範学校附属小学校、東京第三師範学校附属小学校、東京女子高等師範学校附属小学校の事例を通して—」林尚示、安井一郎、鈴木樹、眞壁玲子、元笑予、下島泰（2023年度教育の多様性と革新的実践を考えるシンポジウム・日本学校教育学会2023年度第1回ミニ国際交流シンポジウム、於：台湾嘉義大学、10月26日）

林 永強

論文（単著）

- ・「物語ることと聞くことのはざまで：感じ取ることについての試論」（『求真』第28号、2023年、93～105頁）

論文（分担執筆）

- ・“The Feeling of Happiness: Moral Sentimentalism and Knowing-to: On Nishida Kitarō’s Energetism.” Kido, Atsushi, Noe Keiichi and Lam Wing Keung, eds. *Tetsugaku Companion to Feeling*. Dordrecht: Springer, 2024, pp.39-50.

口頭発表（単独）

- ・“From Knowing-to to Feeling-to: On Nishida Kitarō’s Moral Philosophy”. International Mini-Workshop in Philosophy. Department of Philosophy, Soochow University, 27-28<sup>th</sup> April 2023.
- ・“Harmony of Feelings: On Nishida Kitarō’s Feeling-to Approach to the Good”. International Society of East Asian Philosophy, 2023 Conference. School of Philosophy, Psychology and Language Sciences, The University of Edinburgh, 15-16<sup>th</sup> September 2023.
- ・“Why Japanese Philosophy Today?” Workshop on East Asian Philosophies Today. School of Philosophy, Psychology and Language Sciences, The University of Edinburgh, 18<sup>th</sup> September 2023.



- ・ “The Feeling of Congruence: From Shaftesbury to Nishida Kitarō.” Practical Philosophy across East Asian Traditions. Department of Philosophy, National Chengchi University, 6-7<sup>th</sup> October 2023.
- ・ “From Feelings to Norms: A Nishidaian Approach”. International Symposium “Social Norm, Sentiment and Ethics in Japanese Philosophy from the International Perspectives”. Department of Philosophy, National Taiwan University, 5<sup>th</sup> November 2023.
- ・ 「西田幾多郎、儒學與道德情感：情動倫理學的創建」「東亞儒學經典的傳統與當代國際學術研討會」、臺灣大學人文社會高等研究院東亞儒學研究中心、國立臺灣大學、2023年12月18-19日
- ・ “Event-based Agent: On Kimura Bin’s Philosophizing of Self”. International Workshop on East Asian Ethics: Knowledge and Action. Department of Philosophy, Soochow University, 23<sup>rd</sup> February 2024.
- ・ 「西田幾多郎の理性與倫理」「現代日本與傳統：由哲學的省思」工作坊、國立臺灣大學哲學系、2024年3月16日

#### 講演

- ・ 「情的文化：從西田幾多郎的觀點看」國立臺灣大學日本語文學系、2023年5月9日
- ・ 「美德倫理學：從西田幾多郎的觀點看」中國文化大學Eurasia講座、2023年11月16日
- ・ 「美德倫理學：從西田幾多郎的觀點看」東吳大學哲學系、2023年12月20日
- ・ 「三木清的行為哲學：情感與身體」東吳大學哲學系、2023年12月22日
- ・ 「三木清的行為哲學：從美德倫理學的觀點看」國立政治大學哲學系、2023年12月29日
- ・ 「西田幾多郎、儒學與道德情感：情動倫理學的可能性」中央研究院中國文哲研究所、2024年2月1日
- ・ 「東亞視野中的情動倫理學」國立臺灣師範大學東亞系、2024年3月5日
- ・ 「情的文化：西田幾多郎的日本文化論」國立臺灣大學國家發展研究所、2024年3月14日

#### 和田 一郎

##### 著書（共編・共著）

- ・ 『児童相談所一時保護所の子どもと支援：ガイドライン・第三者評価・権利

擁護など多様な視点から子どもを守る』鈴木勲と共編・共著、明石書店、  
2023年9月

口頭発表（単独）

- ・「自治体職員と大学院進学を考える」（地方行政実務学会第4回全国大会  
2023年12月2日）
- ・「一時保護所改革に必要な視点」（日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋  
賀大会 S-38児童相談所一時保護所の子どもと支援 2023年11月26日）
- ・「子ども領域における AI活用のフロンティア—データ駆動型研究と実践のた  
めのアプローチ—」（日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋賀大会 2023  
年11月26日）
- ・「地方行政実務の支援とは？」（地方行政実務学会第3回全国大会シンポジウ  
ム：「コロナ対策再考」2023年7月8日）

その他

- ・「福祉においてDXがなぜ必要なのか—「Socialwork is Datascience」の視点  
から」（『月刊福祉』107(1) 2024年1月、17～20頁）